

シンポジウム

## 劇空間の音風景



声による演出から見る古今東西の世界観

2015年5月23日(土) 15:00-17:40

## 趣旨

感情を表現したり会話したりするために使っている声、当たり前すぎて、ふだんその重要性に気づかない「声」には、いろいろな情報が詰まっています。

この声を使って、さまざまな音風景が演出される劇空間を3人のスペシャリストにそれぞれ語ってもらい、日常の音風景における声の重要性について考えていきます。

## 山形 治江

ギリシャ劇におけるコロス(合唱舞踊団)の役割

## 増野 亜子

インドネシア・バリ島の歌芝居アルジャにおける声と身体

## 梅田 英春

バリ島の人形影絵芝居ワヤンにおける人形遣いダランの声

参加費：無料

申し込み：不要

会場：日本大学 生産工学部 39号館 601号室 (スプリングホール)

津田沼キャンパス

<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/access/>

## ■ 総会

日本サウンドスケープ協会会員向け

- ・日時：2015年5月23日（土）13:00-14:30
- ・会場：日本大学生産工学部 39号館 601号室（スプリングホール）  
<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/access/>

## ■ シンポジウム

どなたでも 参加できます！

—劇空間の音風景 声による演出から見る古今東西の世界観—

- ・日時：2015年5月23日（土）15:00-17:40
- ・会場：日本大学生産工学部 39号館 601号室（スプリングホール）
- ・参加費：無料
- ・申し込み：不要
- ・プログラム
  - 14:30 受付開始
  - 15:00-15:05 開会挨拶
  - 15:05-15:10 シンポジウム趣旨説明（司会 塩川博義）
  - 15:10-17:10 講演（各40分）
    - 山形治江「ギリシャ劇におけるコロス（合唱舞踊団）の役割」
    - 増野亜子「インドネシア・バリ島の歌芝居アルジャにおける声と身体」
    - 梅田英春「バリ島の人形影絵芝居ワヤンにおける人形遣いダランの声」
  - 17:10-17:30 質疑討論
  - 17:30-17:40 閉会挨拶

## ■ 情報交換会

どなたでも 参加できます！

- 日時：2015年5月23日（土）18:00-19:30
- 会場：日本大学生産工学部 39号館 2階食堂
- 参加費：3,000円
- 講演者も参加予定

## 講演者プロフィール

**山形治江(やまがた はるえ)**: 日本大学生産工学部教授。津田塾大学英文科卒。早稲田大学大学院西洋演劇専攻博士課程単位取得退学。専門は、演劇学、ギリシャ悲劇研究。1987～1990年にギリシャ政府給費留学生として古代ギリシャ劇の現代上演史を学ぶ。2000年代に演出家蜷川幸雄の舞台の台本翻訳を手掛ける。訳書に、ソフォクレス作『オイディプス王』（劇書房、2002）、ソフォクレス作『エレクトラ』（劇書房、2003）、エウリピデス作『メディア』（れんが書房新社、2005）、エウリピデス作『オレステス』（れんが書房新社、2006）、エウリピデス作『トロイアの女たち』（論創社、2012）。著書に『ギリシャ悲劇』（単著、朝日新聞社、1993）、『ギリシャ劇大全』（論創社、2010）ほか。2003年度湯浅芳子翻訳賞受賞。2011年 AICT（演劇評論家協会）賞受賞。

**増野亜子(ましの あこ)**: 東京芸術大学音楽学部楽理科卒、同大学大学院音楽研究科修士課程修了、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。専門は民族音楽学、インドネシア芸能研究。1993～95年にインドネシア芸術大学デンパサール校に留学。帰国後、バリ・ガムランの演奏や指導にあたっている。現在、東京芸術大学、明治大学、国立音楽大学、立教大学、亜細亜大学非常勤講師。著書に「インドネシア芸能への招待」（共著、東京堂出版、2010）、「声の世界を旅する」（単著、音楽之友社、2014）ほか。

**梅田 英春(うめだ ひではる)**: 静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科教授。国立音楽大学（音楽学）卒。桜美林大学大学院国際関係学研究科修了。総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程単位取得退学。2008年度から2011年度まで、沖縄県立芸術大学音楽学部准教授。専門は民族音楽学、芸能人類学。1986～88年にインドネシア芸術大学デンパサール校に留学。帰国後、バリ・ガムランの演奏や指導および影絵人形芝居「ワヤン」の人形遣いとして活躍している。著書に『黒澤隆朝 東南アジア音楽紀行』（編著、大空社、1999）、『バリ島ワヤン夢うつつ——影絵人形芝居修業記』（単著、木犀社、2009）、『インドネシア芸能への招待』（共著、東京堂出版、2010）、『ワールドワーカーズ・ハンドブック』（共著、世界思想社、2011）ほか。